

## 概要

### 本報告書の位置づけ

第3次三鷹市基本計画改定に伴い市民参加の手法を駆使することを目的として、住区別まちづくり懇談会、課題別まちづくり懇談会、はがきによるアンケート調査、パブリックコメントなどと共に、多種多様な市民参加の手法のひとつとして今年も早い時期からまちづくりディスカッションの活用が検討されてきた。

本報告書は、ディスカッションから生まれた市民提案を市の改定案へ反映することを第1の目的とし、第2回目の開催となる無作為抽出市民による市民参加～まちづくりディスカッションの取り組みについて評価と検証を行うことを第2の目的としてまとめられたものである。

本報告書は、その内容を「基本計画改定に向けたまちづくりディスカッション実行委員会」設置要綱に基づき、「基本計画改定に向けたまちづくりディスカッション実行委員会」が三鷹市に提出するものである。

### 第3次三鷹市基本計画の第2次改定

現行の第3次三鷹市基本計画は平成13年に策定された。最初の改定は平成16年度に行われ、平成19年度は第2次改定の年にあたる。計画期間のスケジュールは下図のようになっている。

平成	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
西暦	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
	前 期									
				中 期						
							第3次基本計画（第2次改定）			
							後 期			

### まちづくりディスカッションの目的

三鷹市では、従前から住民協議会による「コミュニティ・カルテ」など多くの市民参加の機会を提供してきたが、平成13年に「第3次三鷹市基本計画」を策定する際には白紙からの市民参加として公募市民による「みたか市民プラン 21 会議」を実施し、参加市民からの提言を基に基本計画策定を行った。

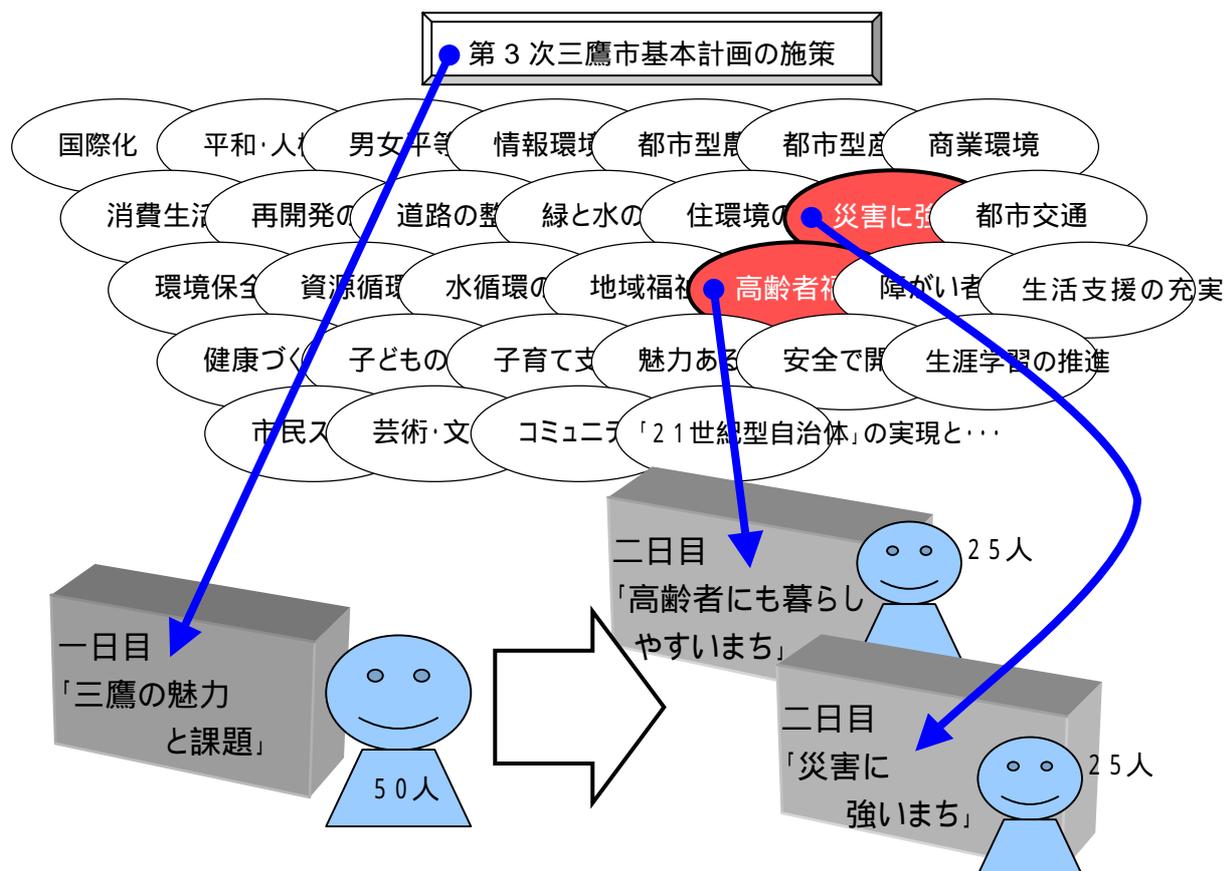
平成16年度の計画改定においては、ICTを活用した「eコミュニティカルテ」等を用いた市民参加を行い、より多くの市民参加を促す試みを行った。

この基本計画改定とは別に、平成18年度にはまったく新しいチャレンジとして“子どもの安全安心”をテーマに、無作為抽出の市参加による「みたかまちづくりディスカッション 2006」を開催し、この

市民参加手法が今後のまちづくりに大変有効であり、かつ参加市民の満足度が高いことを確認済みであった。

今回の基本計画の第2次改定にあたっては、より多様な市民意見を聴取し計画に反映させるために、まちづくり懇談会、パブリックコメントや広報特集号による市民アンケートなどによる市民意見の収集を行うとともに、早い時点からまちづくりディスカッション方式の導入が有効であると判断した。

今回のまちづくりディスカッションでは、無作為抽出による新たな市民の声を（普段はサイレントマジョリティーのこと）計画改定に反映させることを第1の目的とし、さらなる手法の検証・評価を第2の目的としている。



## まちづくりディスカッションの実施

今回のまちづくりディスカッションは、平成19年10月20日(土)、21日(日)の2日間にわたり三鷹市市民協働センターにおいて開催された。

参加者は無作為抽出により18歳以上の市民1,000人に参加を呼びかける参加依頼書を送付し、参加を承諾した市民73人を対象に公開抽選を行い60名に絞った。なお、参加者には謝礼を支払うこととした。

まちづくりディスカッションの当日は47人(10月21日は49人)の参加を得て、第1日目は共通テーマとして「三鷹の魅力」を、2日目は大きく2つの集団に別れ「災害に強いまち」「高齢者にも暮らしやすいまち」を2大テーマとして話し合いを行った。

話し合いにあたっては、1日目は共通テーマで9グループに別れた。2日目は「災害に強いまち」をテーマとする集団が4グループに別れ、「高齢者にも暮らしやすいまち」をテーマとする集団は5グループで討議を行った。いずれも5~6人を基本とするグループを作り、話し合いを進めた。

グループには中央のテーブルを囲んで、卓上には模造紙と付箋紙を用意し、毎回3つまでの意見をまとめ、模造紙に記入したうえでそれをもとに発表した。全グループの発表後、意見の傾向を見るための目安として投票を行った。

## 市民提案の内容（詳細は第2章参照）

### (1) みたかの魅力について

緑・自然に恵まれているが、その保全等配慮が必要で、コミュニティバス等きめの細やかな公共交通が望まれている。

### (2) 災害に強いまち

避難経路・場所や支援物資の確保のほか、誰でも正しい情報を入手できる状況が望まれている。

### (3) 高齢者にも暮らしやすいまち

地域や異世代とのコミュニケーションの機会、医療情報や道路に代表されるインフラ整備が望まれている。

## みたかまちづくりディスカッションの有効性（詳細は第3章参照）

### (1) 効果のまとめ

提案の内容は、市民や地域で実施すべき課題と行政で実施すべき課題が区別されていて、それぞれ実現可能性が高いものとなっている。アンケートの結果、まちづくり全体への関心が高まったとの回答が多く、市民が市政を知る学習効果としての有効性も認められた。

### (2) 手法の進化

みたかまちづくりディスカッション 2006 と同じ手法を用いながらも、より公平性・中立性を保つため、公募市民を含めた実行委員会形式をとり、準備段階から市民参加を図った。また、前回の経験を活かしコンパクトな運営を実現するため、準備に要した打合せは30回から5回に減らし経済効率が図られた。